



未来へ渡そう われらのタスキ

夜明けの星

団 NEWS No.279

日本ボーイスカウト 川崎第46団
広報委員会発行

「新年度を迎えて」

団委員長 久保井 基隆

今年もまた新しい年度が始まりました。昨年度は発団46周年の年で団キャンプをはじめ11月には記念式典を盛大に執り行うことができました。これも指導者の皆様や育成会の皆様のおかげだと感謝しております。改めてお礼申し上げたいと思います。



さて、当団では毎年スローガンを全スカウトから募集し団委員会の場で決定しております。今年のスローガンは「未来へ渡そう われらのタスキ」となりました。毎年々々、スカウト達が成長していくと共にその年代で培ったものを駆伝のタスキの様に次の世代にまた伝えていく、新たな46年のはじまりの年にふさわしいスローガンになったと思っています。このスローガンはボーイスカウト隊の伊東夢奏（ゆかな）スカウトが考えてくれました。本当にありがとうございます。

話は変わりますが、毎年、「夜明けの星」の新年度特集号では、ボーイスカウトに因んだお話を書かせて頂いています。本年度は“ちかい”のお話、中でも第三条（「からだを強くし、心をすこやかに、徳をやしないます」）についてお話したいと思います。“徳をやしなう”、子供達のみならず大人でも解釈が難しい言葉だと思います。そこで今回は、江戸時代の学者で日本陽明学者の祖とも言われている中江藤樹の言葉をご紹介します、その意味を考えてみる一助にして欲しいと思います。その言葉とは「大善は名声をもたらすが、小善は徳をもたらす」との一節です。日々小さくても善い行いを重ねることで徳がもたらされるという意味でしょうか。

世の中には、明らかに名声を得ることを目的にして大善を行う例があります。大々的な社会貢献や多額の寄付をアピールする企業や資産家などの行為です。決して名声を求めているわけではないかもしれませんが、結果として大善は名声をもたらしてしまいます。ただ、残念なことに、徳をもたらすわけではありません。それは徳というのは、小善の積み重

ねの結果として長い年月を経てのみ醸し出されるものだからではないでしょうか。

企業の場合、素晴らしい社会貢献事業に取り組んでいても、本業や日々の社員の振る舞い、トップの言動に問題があれば、名声は得るかもしれませんが、偽善的に映ってしまうものです。派手で目立つ言動よりも、日々の身の回りの小さな「陰徳を積む」行いの方が重要なのだと思います。日々の行いに加えて、日々の気持ちや思いがより重要であり、慢心やおごり、ねたみが出てきたら、心の中でそれを取り去り、心の陶冶に励むことが大切ではないでしょうか。それを何年も何十年も続けて習慣化すると、心の中が善い気持ちで満たされ、その気持ちが普通となり、突き動かされて日々小善を積み重ねることになる。徳とはこうして長い年月を経てやっともたらされるものなのでしょう。徳を積むという言葉あります。日々の善行を重ね、気持ちをおだやかに過ごすことの積み重ねが徳をもたらすことにつながるのだと思います。勿論そのためには健康で小善を重ねる体力が必要です。“ちかい”の第三条はそういうことを言っているのではないのでしょうか。

さて最後となりますが、当団のスカウト数は減少の一途をたどっております。ご存知の様にボーイスカウト活動がボーイスカウトらしく活動するためには、一定のスカウト数が必要となります。今年も団をあげて組織拡張活動を推進していく予定ですが、皆様方のご支援が必要でございます。OBSの皆様や賛助会の皆様も含め、何卒宜しくご協力を賜りたいと思います。本年度も団の皆様と共に「社会に役立つ子供たちの育成」に向け精進したいと考えておりますので何卒倍旧のご支援の程、重ねて宜しくお願い致します。

※中江 藤樹（なかえ とうじゅ）

1608年4月21日（慶長13年3月7日）-1648年10月11日（慶安元年8月25日）近江国（滋賀県）出身の江戸時代初期の陽明学者。近江聖人と称えられた。

※陽明学（ようめいがく）

陽明学（ようめいがく）は、中国の明代に、王陽明がおこした儒教の一派で、孟子の性善説の系譜に連なる。陽明学という呼び名は日本で明治以降広まったもので、それ以前は王学といっていた。

（ウィキペディアより）

以上

特集：新育成会長・新隊長に聞きました

「楽しい活動を」

育成会長 荒川 泰一

今年度から育成会長を引き受けることになりました荒川です。田中前会長、健康問題を抱えながらのお勤めお疲れ様でした。ほぼ同期の入団ですから、団スキーで顔を合わせて以来25年以上になりますね。あれから4半世紀、46団のスカウト数も3、4分の1になりました。



減少の理由は様々あるでしょう。趣味の多様化、部活の隆盛、受験の激化、集団活動の低下、親の仕事の不定期化…、数え上げたらキリがないし、対策を考えても多様すぎて決定打がありません。スマホでの擬似交流で済んでしまうような若者の傾向もますます進んでいくでしょう。

このような状況だからこそ、ボーイスカウト活動の意義は高まっている筈、とはいえ、現実を受け皿にはなっていないことからすれば、広報や活動の仕方だけの問題ではないのでしょうか。

でも体験をした親子はそれなりに魅力を感じていると思います。体験イベントや口コミで少しでも触れてもらうことが大事なのは言うまでもありません。あとは現に活動している我々が楽しくやっているかが重要です。楽しそうでなければ人を引きつけることはできません。

つまり、子供が生き生きと活動している、親も浮き浮きと手伝っている、という姿を見せられるかどうかは常に問われている、と言っても過言ではないのです。まあ仕事でも趣味でも同じですけどね。

ということで、現役の皆さんが如何に楽しくできるかを皆さん自身で開拓して頂くことが最も大事なことだと僕は思っています。本来のボーイスカウト活動を勉強するのも46団の伝統を教わるのも今の活動の楽しさに結びつかなければ意味がありません。

時代の変化は世代ごとに段階的に受けていますので、年配者が今を論じても所詮土台が古いわけですから、結局今の打開点は見出せないと思えます。年配者の経験と到達点は現役からは飽くまで参考意見として扱うもの、答えは現役が見出していく。そ

うやって変質しながら受け継がれていく、というのが歴史というものでしょう。

話がまた逸れました。そんなわけで育成会は親の懇親を中心にして原隊の活動を支援していこうと思っています。その中で会長は相談役として、現役の皆さんの疑問質問苦情を受け付けていくつもりです。どうぞ宜しくお願い致します。

「ローバーリング ツウ サクセス」

RS 隊隊長 北村 岳人

ローバー (Rover) とは、人生の旅人という意味がある。この年代のスカウトは、これまで積み重ねてきたスカウト精神と高度な野外活動の経験を活かし、社会に対する奉仕の精神を更に身に付けることによって、より大きな幸福を手にしうように仕向けるのが私に課せられたミッションです。



ベーデンパウエルがローバースカウトのために書いた幸福になる道を示す手引書「ローバーリング ツウ サクセス (Rovering to Success)」は、最後のメッセージとの解説書であるという人もいます。その中で、

「幸福への二つの歩み、それは… 人生をゲームと考へ、愛の心を人に施す」、「自分のカヌーは自分で漕げ (Paddle your own canue)」と書かれている。とても好きなフレーズである。また、1922年3月23日、ベーデンパウエルが息子のピーターに書いた手紙には次のように書かれている。

「ピーターよ、君が16歳になった時に読むように長い手紙を書いている。それは、ローバーリング ツウ サクセスである。16歳の少年としてのしらなくてはならないことを書いてある。もちろん他の少年達にも立派な人間になっていくために読んでもらいたい。人生の道標として読むように書いてある。私の父は3歳の時に死んだので、父から学ぶことは出来なかった。君が16歳になる時は、私は死んでいよう。たとえ、死んだとしても、その本は君の良き父となるであろう… 父より」

この手紙を読むと、ローバーリング ツウ サクセスは、ベーデンパウエルが息子に残した遺書であり、



翻訳者の中村知がスカウティングの「奥伝書」と言われるのうなづける。中村によれば、「奥伝」が最高にして最終ではなく、その上に「秘伝」がある。秘伝は大自然という本に書いてあり、すなわち、ウッドクラフトというものがそれである。それは宗教に繋がり、明確なる信仰がつかめた時に「皆伝」の域に達すると書かれている。

改めて、「ローバーリング ツウ サクセス」を読み返したが、ローバースカウト一人ひとりが、積極的な社会人として貢献する精神力を養って欲しいと思った次第である。

が、前任の岩崎様、諸先輩方の偉大な功績を受け継ぎ、46団の発展と活動の充実のために、専心努力する所存です。

今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りたく衷心よりお願い申し上げます。

以上

行事・イベント

2018年度入隊式・上進式 (2018年4月8日)

4月8日(日)16時30分から、三田小学校体育館にて入隊式・上進式が行なわれました。団委員長から2018年度のスローガン「未来へ渡そう われらのタスキ」が発表されました。上進するカブスカウト、ボーイスカウトが「やくそくとさだめ」「ちかいとおきて」を大きな声で宣言しました。上進するベンチャースカウトは両親に手紙を読み上げました。「弥栄(いやさか)」の掛け声で上進スカウトを祝福しました。

「新隊長抱負」

BS 隊隊長 原田 健

団委員と各隊指導者、保護者、スカウトが一丸となり、素晴らしい教育環境を達成している46団のBS 隊隊長に着任した喜びは申し上げるまでもありませんが、同時に、その責務の重大さに身のひきしめる思いがいたします。



ご存知の方も多いと思いますが私も46団でスカウト時代を過ごしました。入団が1977年ですので41年間の関わりです。沢山の仲間と沢山の経験をすることが出来ました。時代背景もあり、厳しい指導も多々ありましたが一度も「辞めたい」とは思いませんでした。シニア(現在のベンチャー)、ローバーと上進するにつれ辞めてった仲間に「キツイとこだけやって、辞めてもったいない」と冗談を言っていました。しかしこれは冗談ではなく社会への一歩を人より早く踏み出す事を逃した事にもったいないと思っていました。ローバーになってからBS 隊副長補になり、リーダーシップや先を読む力はここで磨かれた実感があります。到達しないと見えてこない世界があります。保護者の皆様、是非お子様に見せてあげてください。

スカウト諸君!部活とボーイ、受験とボーイと両立に悩む事もあると思います。他にも色々悩みます。何事も「できない、難しい」と考えるのではなく「できる、やってやる」の気持ちを持っていきましょう!

スカウト時代に得た経験を活かし「ボーイスカウトの良いところ」をスカウト達に楽しみながら学んでもらいたいと思います。甚だ微力ではございます





2018年度育成会総会（2018年5月6日）

5月6日（日）13時30分から、生田中学校特別創作活動センターにて育成会総会が行なわれました。



編集後記

たくさんの方々のご協力のもと、無事に広報誌を再開することができ、本当にありがとうございました。楽しい紙面をお届けしたいと思っておりますので、ご期待ください。

<広報委員>

江川 豊、荒川 泰一

菊スカウト章授与式（2018年4月8日）

4月8日（日）16時00分から、三田小学校体育館にて菊スカウト章授与式が行なわれました。川崎地区副コミッショナーから原田スカウトに菊スカウト章が授与されました。川崎地区、歴代最短の授与とのことです。

川崎46団のHP

<http://www.bsk46.com/>

